

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 干共 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話  
03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
発行人 内藤留幸  
編集主筆 竹澤知代志



とびきり美味しい食事をいただいて、とびきりの笑顔

私は東京教区西南支区の常任委員として「教育担当」という支区の働きを担っている。中高生から青年への伝道が主な働きである。これまで教育担当の活動は時に応じて変化してきた。柔軟性を持ちつつ、活動の目的として大切にすべきことは、青年がこの働きを通して教会につながり、教会生活の励ましを受けることだと考えている。創造主と出会い、神に愛されている自分を知り、信仰の友と出会うことができるような活動になれば、と願っている。

これまで教育担当が長年続けてきた働きに浜松の聖隷福祉事業団でのワークキャンプがある。数多くの参加者が汗を流し、豊かな体験を与えられてきた。大勢の方々の助けによって継続されてきたキャンプだったが、ここ数年間準備が整わず休止状態となっていた。しかし、青年たちから「ぜひワークをしたい」との願いがあり、昨年から栃木県西那須野にある農村指導者養成機関である、アジア学院を会場にしてキャンプを再開することとなった。

今年七月末に二泊三日の日程でキャンプが行われ、少人数であったが青年たちに加えてうれしいことに中学生二名の参加があった。私たちにとって印象的だったのは食肉のアイガモを食肉処理する作業に立ち会ったことである。「いただきます」とは自分たちの食生活が「いのちをいたく」ることによって成り立っていることを教えられ実感した場面であった。

## 東京教区西南支区「青年の交わり」

## 夏に集う若者たち 2000

つながりを体験する集いを計画している。先日の集いでは昨年度の委員の一人であった輪島教会の信徒伝道者である五十嵐成見先生に地震を覚えて寄せ書きを送った。この交わりを通して青年たちは互いに配慮し合い、ウェルカムでアットホームな雰囲気、受け皿ができてきたと思う。青年が求道者の友人をつれてくる時



アイガモの食肉処理…神妙な面持ち

もあるし、この交わりがきっかけとなって信仰告白に導かれる人もいる。青年たちが自主的に活動することができるよう見守り、助け、促していきたい。青年時代は生活の変化が大きい年代で、参加者の顔ぶれは変化する。いろんなことで悩み、傷つくこともあるだろう。それでも同世代の信仰の仲間たちと会い、礼拝し、食事を取り、心を開いて語り合い、お互いの声に耳を傾ける場があることが大切ではないかと思う。このような時と場所を持つこ

とは一つの教会では難しくても、支区の働きとなればできるのである。今集っている青年たちに、そしてこれから足を運ぶ青年たちに

福音を届けるための業の一つとして、この働きが継続することが求められていると思う。

興味と心配とがない交ぜの出発であったが、十代の人たちは「それなりに」知り合っていたようである。筆者も、またここでは新人であったので、新鮮な気持ちで参加者たちの様子を見させてもらうことが出来た。

こういう場での大人の役割は、出すぎて、引っ込み過ぎて、もうまくない。張り切りすぎても、白け過ぎても、なんだかなあ。となってしまう。要は、彼らと無理なく添っていかれば良いのである。そう、おとなたちにとってもこれは修養の場・・・

ともあれ、緊張や、不安感の為体調を崩した二、三を除いて事故、怪我無く保険使用無しであった事、帰路での参加者の感想では「楽しかった」であった事で概ねよろしかった、としたいと思えます。

教会でいつも小さな群れである十代の人たちが集まってみると地域の縛りや、関係から一時的にでも解き

## 「ともに生きる」ことを実現するには

奥羽教区ユースサマーキャンプは今年で五四回を数えます。今回は「テーマ」ともに「生きる」とし、八月八日(水)～一〇日(金)まで、会場を奥中山教会、カナン園・羊めー館を宿舎とし、工房アドナイ・エレでの活動を計画させていた

「ヤ、証しの時など盛りだくさんである。が、生活キャンプでもあるので三食毎の下準備、片付けはスタッフとともに参加者も大いに動かなければならない。教会のキッチンには人であふれる。玉葱に泣かされずに逃げられ、食事はその都度整えられた。

二回の夜は睡眠の時では懐かしい、カードゲームを楽しむ者ありの交流の時間となった。電子玩具持込禁止でアナログの遊びはほぼ六歳の年齢差を越えて楽しませるようだ。それらに没頭する者もいるが、周辺にいて雰囲気を楽しむ者もいて、自分のペースを保って

放たれて伸び伸びとする。良い地に落ちた種がぐんぐん成長していく、そんな場として、このキャンプが存在していけば良いなと思わされた事でした。

教育担当で数年前から継続されている活動に「青年の交わり」がある。隔月のペースで日曜の夕方に会場教会に集まり、賛美と交わり、夕食の時を持っている。昨年は平均十五名前後の出席があった。今年は様々な教会を訪問し支区の教会の

奥羽教区ユースサマーキャンプは今年で五四回を数えます。今回は「テーマ」ともに「生きる」とし、八月八日(水)～一〇日(金)ま

で、会場を奥中山教会、カナン園・羊めー館を宿舎とし、工房アドナイ・エレでの活動を計画させていた

「ヤ、証しの時など盛りだくさんである。が、生活キャンプでもあるので三食毎の下準備、片付けはスタッフ

とともに参加者も大いに動かなければならない。教会のキッチンには人であふれる。玉葱に泣かされずに逃げられ、食事はその都度整えられた。

二回の夜は睡眠の時では懐かしい、カードゲームを楽しむ者ありの交流の時間となった。電子玩具持込禁止でアナログの遊びはほぼ六歳の年齢差を越えて楽しませるようだ。それらに没頭する者もいるが、周辺にいて雰囲気を楽しむ者もいて、自分のペースを保って



奥中山開拓団の祈りの場であった「一本松で」

録三章十六節：どなたも御存知につき引用省略。それにつけてもこの夏は暑い。

▼数十年前、郷里の秋田では漬け物・みそ汁が成人病の根本原因のよに叩かれた。撲滅運動だったと言え

「塩分控えめ」の漬け物が現れ、今日では名産品になっている。みそ汁は健康食品だ。▼「糖分控えめ」、これは何とが我慢する。砂糖の入れないコーヒー・紅茶の方が、真の味が分かる

かも知れない。「カロリー控えめ」：「タンパク質が足りないよ」というテレビコマーシャルを記憶している

世代には、ちょっと複雑な心境だが、仕方がない。▼究極のダイエットには「おいしさ控えめ」だそう。確かに、おいしいことこそが、諸悪の根源かも知れない。美食・飽食の時代は、同時に「おいしさ控えめ」の時代、何とやらやらしい。

▼ジェームズ・ヒルトンが伝説の「ジャングリア」を描いた『失われた地平線』に登場する宗教は、徹底して中庸を重んじる。その徹底振り「この教えをあまり信じ過ぎてはならない」と言う程…成程。▼黙示録三章十六節：どなたも御存知につき引用省略。それにつけてもこの夏は暑い。



# 仏教カルト問題を取り上げ

## 統一原理問題全国連絡会開催される

六月二五～二六日、全国から三名の参加者を集めて統一原理問題全国連絡会が開催された。今回は近年被害相談が急増している仏教カルト問題が取り上げられ、日蓮宗大明寺住職、日本脱カルト協会代表理事の楠山泰道師を講師に講演「仏教系カルトの諸相」が行なわれた。創価学会から分かれ「日蓮遺文原理主義」による強引な青少年伝道で問題を起している「顕正会」、独特なエリート主義を掲げる「親鸞会」等の仏教系カルトの成立事情、教義内容、問題点が説明され、楠山師が取り組む被害者救済組織「立正福祉会相談室」の取り組み

が紹介された。仏教関係者との協力態勢の中で被害相談に対応していく手がかりが与えられた。海洋博誘致に統一協会が絡んだ問題で四月一七～二〇日韓国南端の麗水(ヨス)市で開催された「日韓統一協会問題セミナー」の報告がなされた。同地は二〇一〇年の万博誘致が上海市に敗れ、一二年の海洋博誘致においても現地教会の協力態勢の中で統一協会の関与が排除されつつあることが報告された。合わせて、人気韓国ドラマ「冬のソナタ」の舞台であり、統一協会関連施設スキー場を中心に二〇一四年の冬季オリンピックを誘致しようとしている

平昌(ピョンチャン)市の問題も報告され懸念されたが、全国連絡会後の「〇〇総会で誘致失敗に終わった」との報道がなされた。李春熙弁護士による「統一協会をめぐる最近の動き」についての報告では、民法上の「除斥期間」二〇年が、最近増えつつある長期の被害者にとって大きな壁となりつつある問題が注目された。最も被害が甚大で記憶も鮮明な初期の被害が時効で問えなくなるという問題である。その他、清平(チヨンピョ)ン修練所を中心にした手口が被害の中心になりつつあること、合同結婚式によって渡韓した六五〇〇人ともいわれる



日蓮宗住職楠山泰道師の講演に耳を傾ける参加者

七月五日～六日にかけて教団会議室において第35総会期第二回宣教研究所委員

が、その打開策が必要であることが訴えられた。続いて、相浦和生委員長、「宣教研究所規定第三条をめぐって。宣教の目的を考

口をつけてくれた。二日目の発題は、内藤留幸委員長による「日本基督教団教憲に示された教会観の特徴」と題した二時間に

非お読みいただきたい。協議事項としては、前委員会から引き継いでいる「宣教研究所五〇年の歩み」冊子発行に関して、五〇年間に委員会が発行した約一〇〇冊におよぶ刊行物のリストと委員名簿および宣教研究所規定の変遷を付録として付けて発行することにした。宣教研究所が管理の責任をおっている三ヶ所にわたる資料室については、資料室規則を作成する方向で作業中である。また、日本聖書神学校から「教団新報」のCD-ROM化の願いが出されていることが報告され、作業面での打ち合わせ事項を承認した。(宮本義弘報)



新しく主事に迎えられた小林明さん、活躍が期待される

報告、各教区・支区取り組み報告などが行われ、各審議の他、前回、愛澤豊重総幹事職務代行から提案された職員雇用についての新しい提案を土台にして、センタ

日本基督教団は、一九七五年七月十四～十五日開催の常議員会で部落差別問題特別委員会の設置を決め、教団として部落解放の働きを始めました。この原点を

が「部落解放祈りの日」では、七月第二主日を「部落解放祈りの日」として、全国の教会・伝道所に部落解放のための祈りを願っています。今年は七月八日

す。式文中には祈りの言葉や水平社宣言が載せられていいますので、各教会・伝道所でさげられるこの日の礼拝の参考にしていた

ターの小林明新主事の就任式が行なわれました。小林明新主事は、部落解放に向けての決意を表明しました。説教者である向井希夫牧師(大阪教区議長・部落解放センター活動委員)は、

ルカ福音書の善きサマリヤ人の譬えに基づき説教しました。礼拝の中で水平社宣言をみんなで大きな声で朗読しました。宣言の本文に「兄弟よ」という呼びかけや、

礼拝終了後、小林明新主事を囲んでの茶話会がもたれました。部落解放センターは新主事を迎え、また新に部落解放の動きを進めることになりました。(樋口洋一報)

「男らしき産業的殉教者」という文言が出てきます。性差別からの自由という観点なしに、この言葉を、そのまま受け取ることはもはやできません。一九二二年の歴史的文書である水平社宣言の文字に、ある種のつまづきを覚えながらの朗読でした。しかしそのように読んでこそ、かえって、文字の奥にこめられた部落差別に対する根源的な怒りの叫び、人間解放への不屈の精神の宣言が、時代を越えて今日の私たちの耳に聞こえてくるように思いました。

# 辺野古事前調査作業強行に抗議文

## 第二回部落解放センター運営委員会

七月三日～四日、教団会議室において今総会期第二回部落解放センター運営委

することに決まっていたが事情により辞退され、新たに小林明さん(大阪生野教会担任教師)を新主事として迎えることが承認され

の将来について意見を交換しあう時も持たれた。解放劇「最初のしるし」は、内容について様々な批判や意見が寄せられているので、それらを検討して内容を変更したこと、またぜひ各地での上演を検討して

会が六月から始まっている(秋までを予定)ことが報告され、また部落解放センター二十五周年記念礼拝を十一月に東京で行うことが承認された。

運営委員会席上に、辺野古沖で事前調査作業が大規模な形で強行されようとしているとの緊急情報が飛び込み、丁寧に検討した結果、抗議文を出すことと連帯への呼びかけを全国の教会へ

次回委員会は二〇〇八年一月三日～四日に教団会議室で開催される。部落解放センター及び各委員会の活動が、各地での解放運動を進めていく上でより大きな力となっていく事が出来ればとの願いと祈り、そして決意が伝わってくる二日間となった。(多田玲一報)



浪花教会で開催。「部落解放祈りの日」式文を朗読







# 伝道のともしび

## 開かれた教会として

羽昨教会牧師 内城 恵

羽昨教会の関連施設である「羽昨白百合幼稚園園舎移転に伴い、旧園舎を学童保育施設として用いるよう市より委託され、二〇〇三年七月から学校法人羽昨白百合学院により「ゆりっこ児童クラブ」が開所されました。対象児童は小学校一年生から六年生。しかし多くの児童は低学年の子ども達です。毎日賑やかに、四つの小学校から約六〇名の児童が、放課後の時間にこの場へ帰ってきます。長年、幼稚園園舎を間借りして礼拝を守っている私達の教会は、幼稚園こそが「伝道の場」であると信

じ、そのためにいつでも祈り、支えながら歩んでまいりました。今では幼稚園と共に小学生の子ども達も、二〇〇六年度から再開した「教会学校」へと導かれることを切に祈っています。児童クラブでは礼拝は行われませんが毎日のおやつを食べる時、夏休みなどに給食を食べる時、感謝のお祈りを捧げます。「神様。美味しいおやつをありがとございます」「神様。美味しい給食をありがとございます」。子ども達は大きな声で、「アーメン」と言います。

イエスターには、卵探しをします。卵探しの前に、お話しタイム「イエスターうさぎ」のお話しや、絵本の「読み聞かせ」をしている間に、職員がお庭に卵を隠すのです。今年は試みに、うさぎさんや絵本ではなく、聖書から「イエス様の復活」のお話をしてみました。すると、子ども達は次の週、「聖書のお話をもう一回して」「イエス様のお話をもっと聞きたい!」と私のところに頼みにきたのです。子ども達の興味が「うさぎさん」から「イエス様」に移ります。イエス様のお話をしたよかったです。

クリスマスにはクリスマス会を行い、礼拝を守ります。年に一度の礼拝です。初めて礼拝を守る子どもや、白百合幼稚園で礼拝を守ってきた子どもが、みんな一緒に神様のお話を聞きます。讃美歌を歌います。いつもやんちゃな子ども達がとても真剣です。

子ども達は牧師の部屋に、ほぼ毎日のようにやってきます。「ねえ、聖書どこまで読んだの?」「ここ、教会なんですよ。」「なのに、十字架が少ないねえ」等々。教会や聖書に興味津々です。時には、友達と喧嘩をして泣きながらやって来ます。また、病気で体を休めるためにやって来る。友達とうまくコミュニケーションのとれない子どもが、宿題をもってやって来る。現代の子どもは、昔と質の違うストレスや課題を抱えていると言えます。今こそ子ども達が、神様の招きの中に入れられてい



ゆりっこ児童クラブ  
2006 年クリスマス会



羽昨教会 2006 年  
クリスマス礼拝

私たちは常に前を向き、「終末の希望に向かって」歩んでいるのです。十五名程の小さな群れの私達の教会にも、神様の導きにより、いつの日か聖日には礼拝者で溢れ、子ども達が教会に群がる日の来ることを「伝道の幻」として描きながら。

## 隠退教師を支える運動 全教区推進委員会



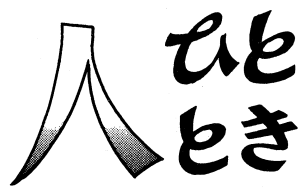
二〇〇七年六月二十六日から二七日にかけて教団会議室で「隠退教師を支える運動・全教区推進委員会」を開催した。出席者は各教区及び東京各支区の推進委員。事務担当者の合計二十八名。陪席者として教団総幹事職務代行・愛澤豊重、年金局理事長・高橋豊、同理事・池田浩二、同業務室長・櫻井淳子の四氏を迎えた。開会礼拝では愛澤総幹事職務代行より「聖霊によって生かされる(ローマ7章4〜6)」と題する説教をいただいた。多田信一委員長・愛澤総幹事職務代行の挨拶の後、四月に行った第35総会期第一回推進委員会の報告。二〇〇六年度の事業報告・決算報告・二〇〇七年度の計画額及び四月〜五月の現状報告があった。そして「隠退教師を支える運動・私たちのビジョン」これは「隠退教師を支える運動の基本理念として持っているもの」を全員で朗読。それから各教区(東京各支区)の推進状況について委員全員による活動報告があった。同じ目標に向かって推進活動をしている各委員が

「自分の所属する教区内の諸教会」に対してどのような方法と手段で推進しているかを報告するプログラムである。それぞれ異なった環境の中で委員一人一人が与えられた賜物を生かしてどのように推進活動をしているのか。それを聴いて自分の活動の参考にしよう。とお互いにじっくり聴き合う大切な報告会である。初めて出席した委員も質問と抱負を述べた。

二七日には高橋年金局理事長から「教団年金局の事業状況」について解説があり、また櫻井年金局業務室長、池田年金局理事からも教団年金に関する発言があった。

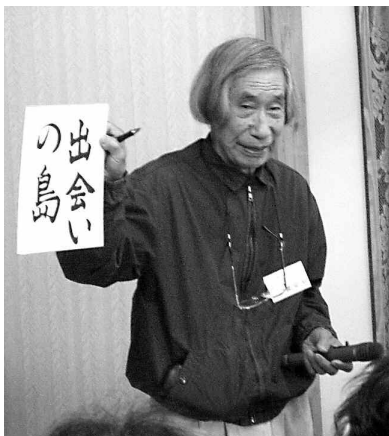
一九七八年の第20回教団総会で「隠退教師を支える運動・一〇〇円献金」が決議されてから、来年は三〇年の節目を迎える。「信徒運動としての献金活動が諸教会の協力のもとに続いていることの感謝を憶え乍ら、どのようにして三〇年目をむかえるかについても話し合った後、閉会祈禱を持って終了した。

(多田信一報)



宮腰定治さん

## 餓え渴きに道を 示され



八丈島教会員。1922 年生まれ。

大学時代の恩師は、後にA級戦犯となった大川周明だった。愛国学生連盟に属し、日曜はビラ巻きに参加した。繰り上げ卒業で軍に入り、アッツ島に配属された。昭和二〇年。ソ連参戦により、北海道稚内へ赴き、そこで終戦を迎えた。

敗戦から立ち直るには経済の発展が不可欠との思いから、小倉の炭坑に向かった。労働組合の運動にも触れたが、「どこか違う」との思いをぬくえなかった。隣の炭坑で婦人部長をしていたトミ子夫人と出会ったのも、この時期である。

炭坑をやめた後、技術屋として博多に移住。上司がキリスト者であったことから、キリスト教に触れ、昭和三年、夫人と

共に受洗した。炭坑伝道の志を与えられ、直方(のうがた)福音ルーテル教会の牧師館で生活しながら、伝道所設立のために働いた。子供が自由学園に入学し、羽仁もと子氏の考え方に触れた。一九八二年、それらの経験の結果として、八丈島に「希望の村」を設立。困難もあり、無謀との声もある中で「折れば聞かれる」と信じて始めた。不登校、依存症、神経症などの問題を抱える人々との生活が始まった。今も入居者であった「子供達」の交わりは続いている。「神学論議は嫌いだ」と言いつ、細かい議論は信仰に関係ない。それよりも愛を実行する事が大願っている。

切。神様の導きが自分に信仰者としての餓えや渇きを与え、行くべき方向を示してくれる。「あそこへ行け、ここへ行け」神様に与えられた命令が、自分をここまで導いてくれた。本当に主の任命が与えられたら、砕かれた心でそこに向かうしか道はない。餓え渇きながら必死に悔い改め、懺悔し、求める事で全てが与えられてきた。今までの歩みはただそれに尽きると言う。

「神様に嘘はつけない」本当に砕かれた心であるか、求めているか、大切なのはそれだけ。これからも、自分を誇らず、神様に祈る生活が続けてゆきたいと願っている。

教区総会や常議員会はじめ教団にせよ、わたしたちは到達したもののいろいろな会合で耳にする言葉の一つに「多様性」がある。合同教会たる教団としてキーワードの「多様性」があるのは当然といえば当然だろう。

しかし、よく考えてみよう。この言葉は「なんでもあり」の同義語ではない。多様性とは信仰的一致の中から生ずる恵みの果実なのだ。

「信仰は一つ、証しは多様」という言葉こそ教団の合言葉だ。信仰告白においては一致している。そして証しはまさに多様で「いずれ

多様性

多様性、証しは「一つ」になりかねない。復活を信じていてもいい、でも「キリスト者ならこの政治社会的課題に反対すべきだ」ときめつける。かくして画一化がおこる。一致と画一化と区別せねばならぬ

多様性という言葉もかくして丁寧に用いなくてはならない。教団の信仰告白という垂直の線、タテ軸に貫かれてこそ、水平の線、ヨコ軸としての多様性の豊かさを享受していく。これは偏狭な教条主義者が口にするタワコトだと言えるのだろつか。

(教団総会議長 山北宣久)